

第7回 平成24年11月14日(水)

第7回の一流塾は、講師に福川伸次氏(塾特別顧問、ジェットスター・ジャパン(株)会長、元通商産業事務次官)及び寺田千代乃氏(アートコーポレーション(株) 代表取締役社長)、懇親会の特別ゲストには残間里江子氏(プロデューサー、club willbe 代表)をお迎えしました。



第1部は、『変容する世界と日本の進路—問われるガバナンスカー』と題して福川氏が講義を行いました。福川氏は、国際的な政治・経済構造の変化と日本の国際的な地位の低下について氏ならではの経験と卓越した情報収集力に基づく多角的分析を行い、これらの状況を踏まえ、日本が活力を取り戻すために日本の企業経営者は何を考えなければならないのか?について持論をご披露頂きました。政治・経済・文化を横断した鋭い分析に、塾生からは「様々な角度から広い視野でこれまでの世界情勢や今後の予測などをわかりやすく解説頂き頭の中が整理され大変参考になった」、「今後の中国の可能性に関する3つの予測シナリオは非常に興味深く参考になった」、「“経営はアートである”という表現が非常に心に響いた」といった声が寄せられました。



第2部では、『Small But Excellent ～小さな一流企業をめざして～』と題し寺田氏が講義を行い、寺田運輸を創業した後に当時は無かった引越し専門のアート引越センター事業を始めた当初から、会社を成長させいったん上場した数年後に非上場化を行った最近時に至るまで、組織風土や理念を守りながら常に挑戦しつづけてきた過程についてご披露頂きました。寺田氏には、急成長の起爆剤となった3つの施策(社名・電話番号・テレビCM)や顧客目線で次々と開発した新しいサービス等の成功事例だけでなく、失敗談も交えながら、実体験に基づいた具体的なお話を頂きました。優しい語り口の中にも創業者としての強い気持ちが込められた講話に塾生一同は熱心に聞き入り、「常に目標に向かい戦っている創業者の話は大変迫力があり今後の実践の中で役に立つ話だった」、「企業理念は掲げるだけでなく実践することが重要であることを再認識した」等の声が塾生からあがりました。

講義後の懇親会では、冒頭、福川伸次氏に乾杯のご挨拶を頂いた後、特別ゲストの残間氏から『無から有を創る苦勞と楽しみ』と題し卓話を頂きました。残間氏は、山口百恵の自叙伝「蒼い時」をプロデュースした時のエピソード等ご自身の体験談を交えながら、プロデューサーの果たす役割やプロデュースの本質についての持論をご披露頂くとともに、club willbe設立の熱い思いについてもお話頂きました。質疑応答では田中角栄先生に関するここだけの秘話もご披露され、残間氏の機智に富んだ軽快な語り口に会場は大いに盛り上がりました。



懇親会後に塾生有志が塾長を囲んで行われた放談会では、第7回まで進み塾生同士も打ち解け、忘年会に向けての話や塾生のプライベートの話に至るまでざっくばらんな会話で盛り上がり、和気藹々と深夜まで楽しく過ごしました。